

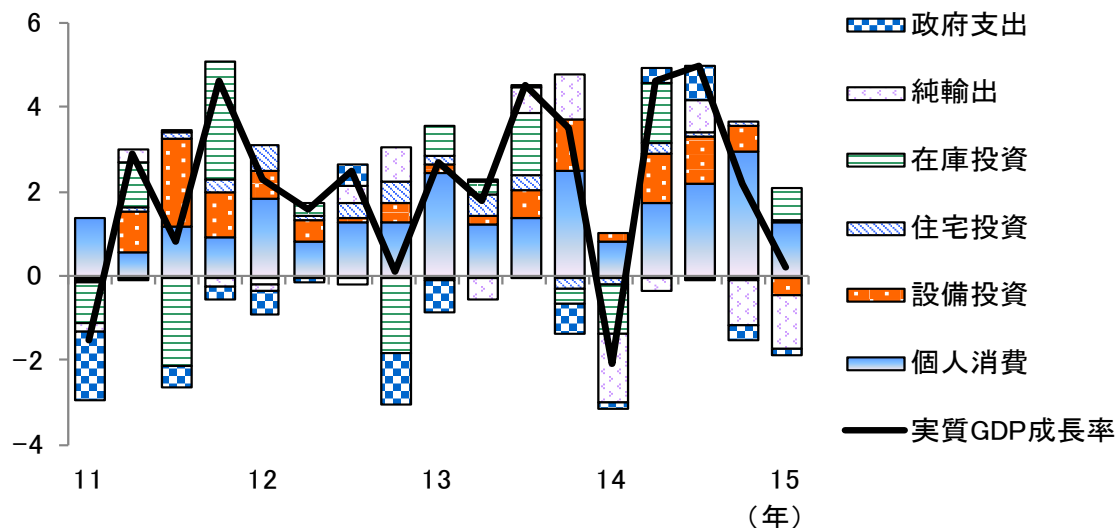
# アメリカ経済グラフポケット (2015年5月号)

2015年5月11日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美  
シニアエコノミスト 土屋 貴裕

## 実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



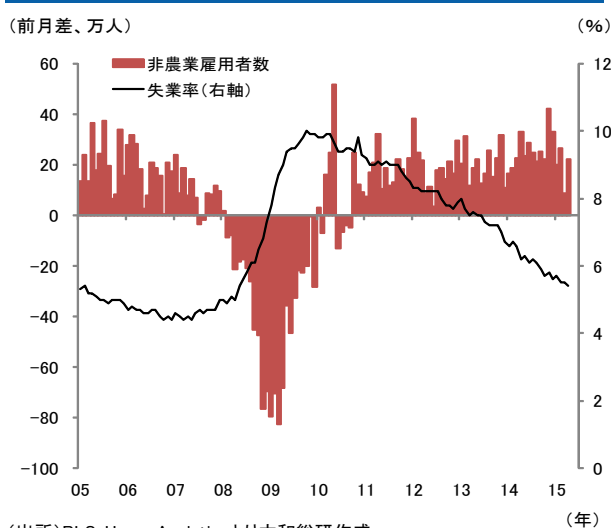
(前期比年率、%、%pt)	2013			2014			2015	
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
国内総生産	1.8	4.5	3.5	-2.1	4.6	5.0	2.2	0.2
個人消費	1.8	2.0	3.7	1.2	2.5	3.2	4.4	1.9
設備投資	1.6	5.5	10.4	1.6	9.7	8.9	4.7	-3.4
住宅投資	19.0	11.2	-8.5	-5.3	8.8	3.2	3.8	1.3
政府支出	0.2	0.2	-3.8	-0.8	1.7	4.4	-1.9	-0.8
輸出	6.3	5.1	10.0	-9.2	11.1	4.5	4.5	-7.2
輸入	8.5	0.6	1.3	2.2	11.3	-0.9	10.4	1.8
寄与度								
個人消費	1.2	1.4	2.5	0.8	1.8	2.2	3.0	1.3
設備投資	0.2	0.7	1.2	0.2	1.2	1.1	0.6	-0.4
住宅投資	0.5	0.3	-0.3	-0.2	0.3	0.1	0.1	0.0
在庫投資	0.3	1.5	-0.3	-1.2	1.4	0.0	-0.1	0.7
政府支出	0.0	0.0	-0.7	-0.2	0.3	0.8	-0.4	-0.2
輸出	0.8	0.7	1.3	-1.3	1.4	0.6	0.6	-1.0
輸入	-1.4	-0.1	-0.2	-0.4	-1.8	0.2	-1.6	-0.3

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

## 雇用環境<sup>1</sup>

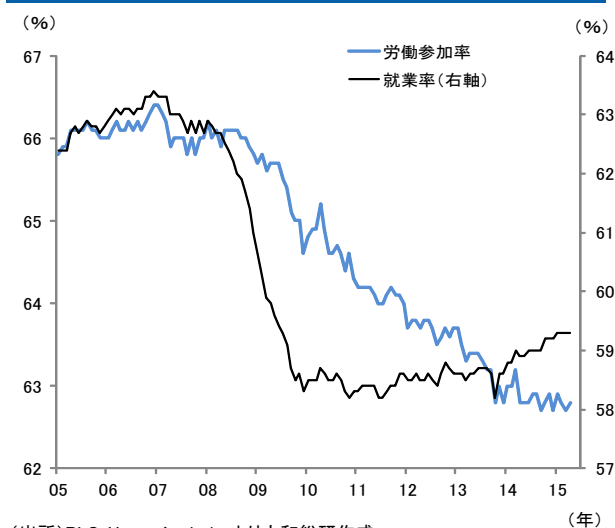
- ◆ 4月の失業率は5.4%で前月より0.1%ポイント低下し、2008年5月に匹敵する低水準となった。失業率の低下は主に雇用の増加に因る。
- ◆ 非農業雇用者数の前月差は22.3万人増と、前月の落ち込みから回復した。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は25.5万人増であった。

### 非農業雇用者数と失業率



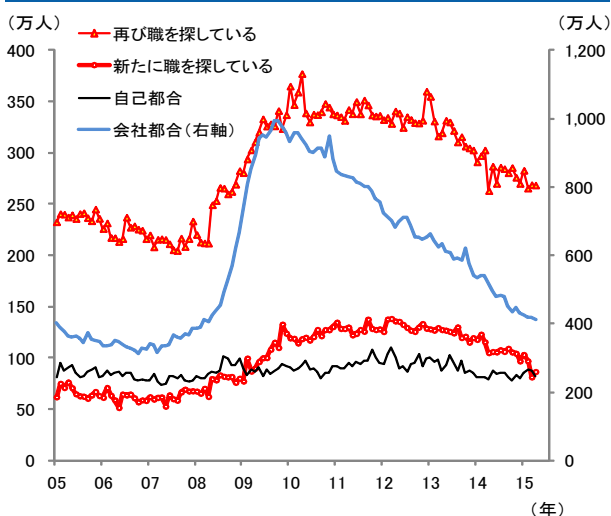
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

### 労働参加率と就業率



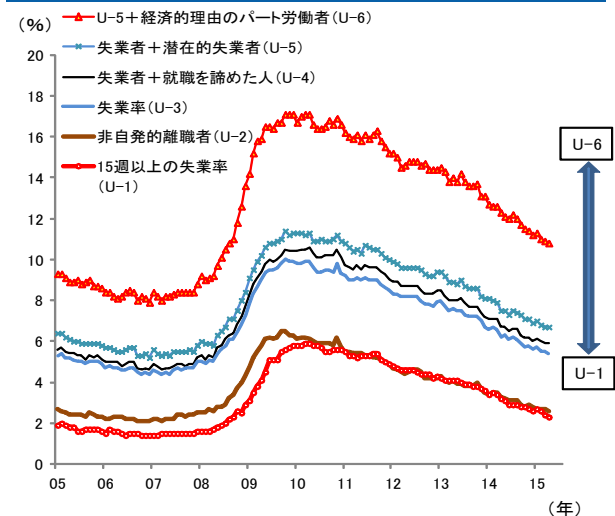
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

### 理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

### 定義別失業率



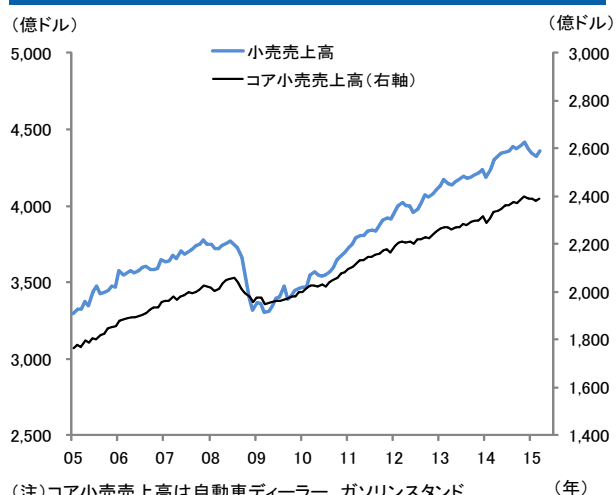
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

<sup>1</sup> 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 土屋貴裕「悪天候要因から回復してきた米国の雇用」(2015年5月11日)参照。[http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20150511\\_009701.html](http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20150511_009701.html)

## 個人消費

- ◆ 3月の小売売上高は前月比0.9%増であった。厳冬による売上高の減少から4ヵ月ぶりに増加に転じ、2014年3月以来の高い伸び率となった。コア小売売上高も前月比0.4%増加した。
- ◆ 4月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の93.0から95.9に上昇した。現在の経済情勢や雇用見通しの改善などから消費者心理が押し上げられ、3ヵ月ぶりに上昇した。
- ◆ 4月の自動車販売台数は前月比4.0%減で、年率換算では1,645万台であった。トラックやSUVの販売は好調であったものの、日本及び韓国ブランドの販売低調が全体の販売減に影響した。

### 小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

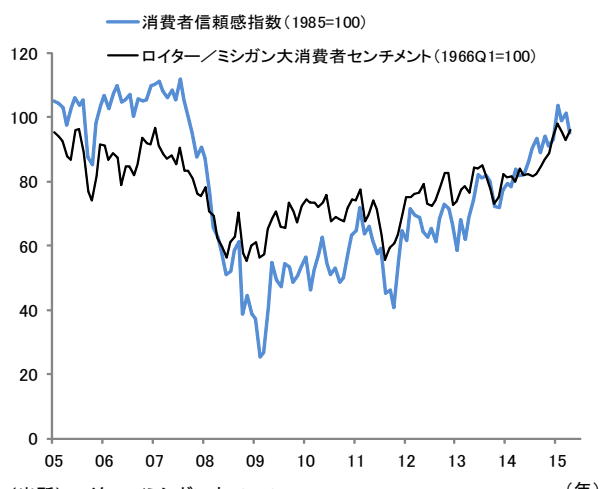
### 消費と株価



(注)株価はWilshire5000。

(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

### 消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

### 自動車販売台数



(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

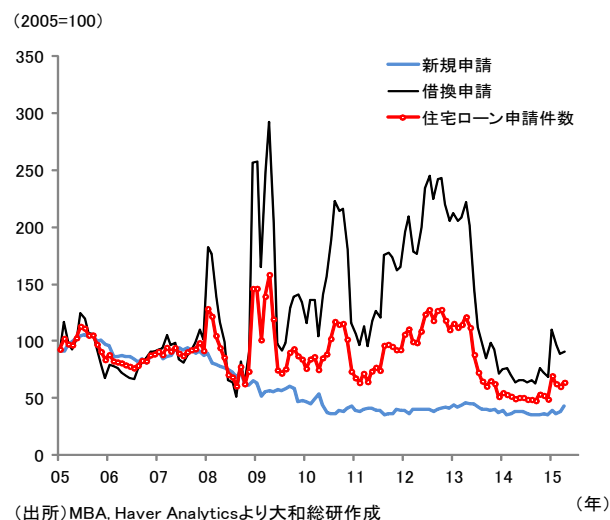
## 住宅市場

- ◆ 3月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、厳冬により大幅に減少した前月から増加に転じ、前月比2.0%増の年率換算で92.6万戸となった。
- ◆ 3月の中古住宅販売（一戸建て）は前月比で5.5%増加し、年率換算459.0万戸であった。中古住宅の物件の供給が増加したことに起因し、2013年8月以来の高水準となった。
- ◆ 3月の新築住宅販売（一戸建て）は前月比11.4%減と大幅に減少し、年率換算で48.1万戸に落ち込んだ。前月まで3ヵ月連続で増加していたものの、南部における落ち込みが影響し、2013年7月以来最大の減少率となった。
- ◆ 2月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月比で0.9%上昇し、6ヵ月連続の上昇となった。

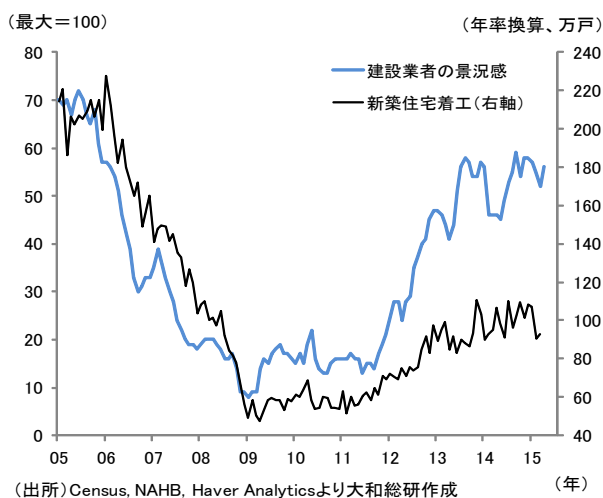
### 住宅販売（一戸建て）



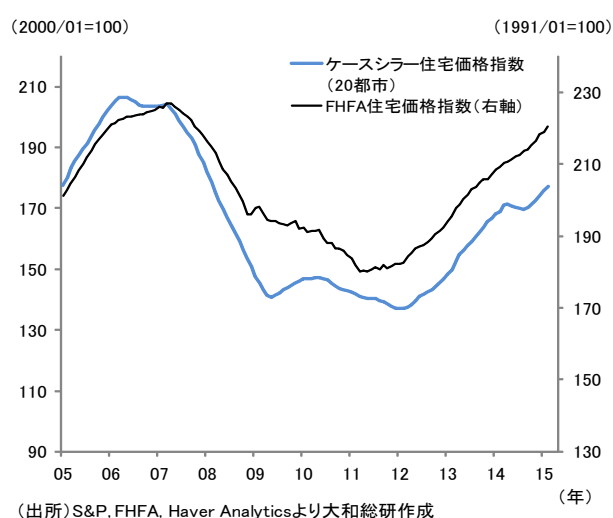
### 住宅ローン申請件数



### 住宅着工と建設業者の景況感



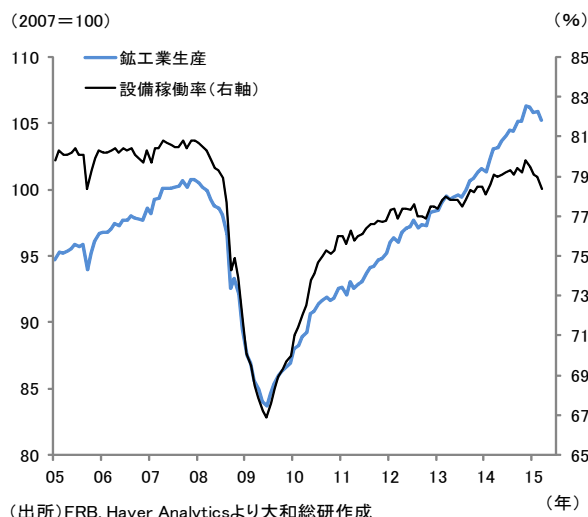
### 住宅価格



## 企業動向

- ◆ 3月の鉱工業生産指数は前月比0.6%低下し、2012年8月以来最大の下落率となった。指数全体の約7割を占める製造業は同0.1%上昇したものの、電力生産や、石油・ガス掘削から成る鉱業の落ち込みが影響し、指数全体を押し下げた。
- ◆ 3月の国防・民間航空機を除く資本財受注は前月比0.1%増加した。ドル高などの影響により低調が続いていたが、7ヵ月ぶりに僅かながら増加に転じた。
- ◆ 4月のISM製造業指数は、前月と同水準の51.5%であった。一方、非製造業指数は、同1.3%ポイント上昇の57.8%で、2014年11月以来の高水準となった。両指標ともに景気の拡大・縮小の分岐点である50%を上回る水準を維持しているが、特に、非製造業指数の高水準が続いている。

### 鉱工業生産と設備稼働率



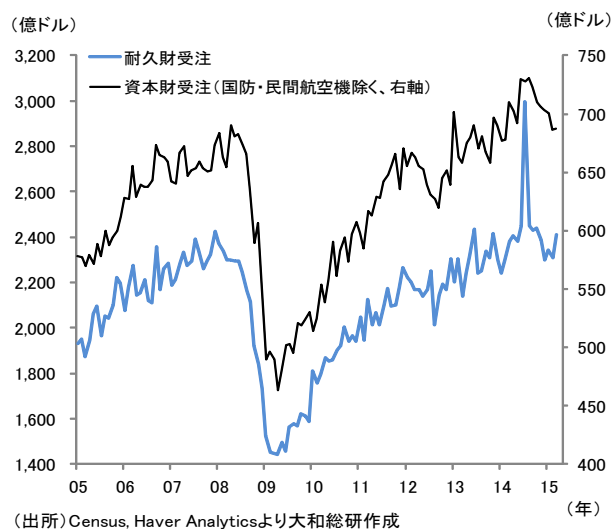
### 企業の景況感



### 製造業の出荷・在庫



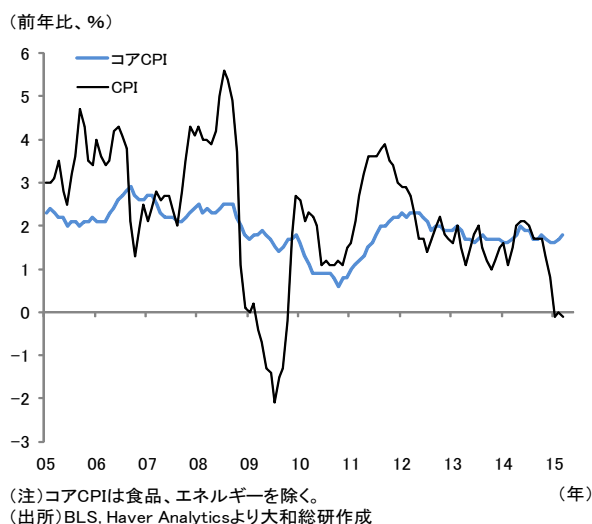
### 耐久財受注



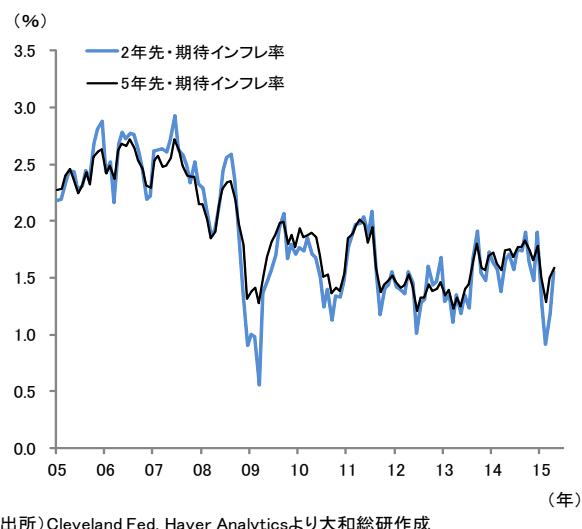
## 物価動向

- ◆ 3月のCPI（消費者物価指数）は前年比0.1%低下、コアCPIは同1.8%上昇した。ドル高などからインフレ率の上昇が抑制されており、インフレ率がFRBの長期目標である2%を下回る状態が続いている。
- ◆ 4月の2年先及び5年先期待インフレ率は前月比で上昇した。原油価格の上昇に伴い、期待インフレ率が上昇した。
- ◆ 4月末のWTI原油先物価格は59.63ドル/バレルと、3月末の47.60ドル/バレルから約25%も上昇した。主要原油生産国のサウジアラビアでの原油生産は過去最高のレベルに達しているものの、イエメンの内戦など中東情勢への懸念や、米国における原油生産の減少などが影響し、価格が上昇した。

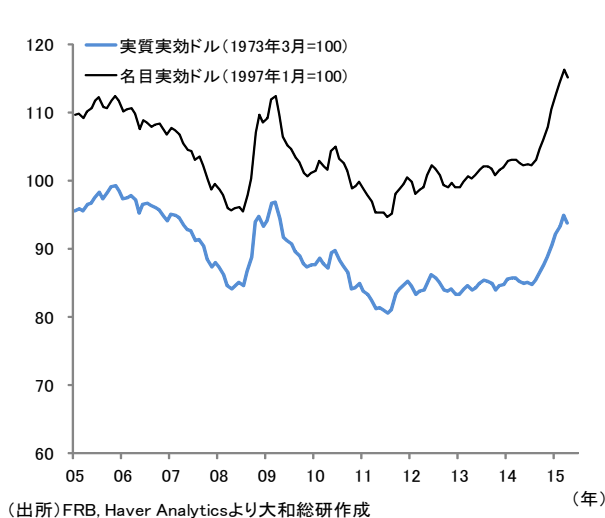
### 消費者物価指数



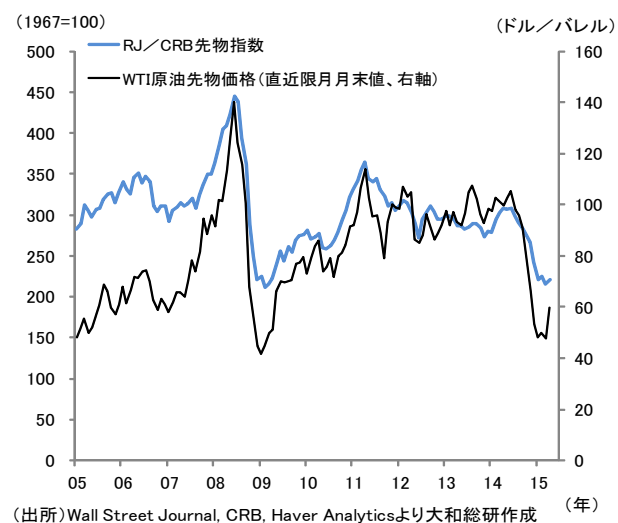
### 期待インフレ率



### 実効為替レート(ブロード)



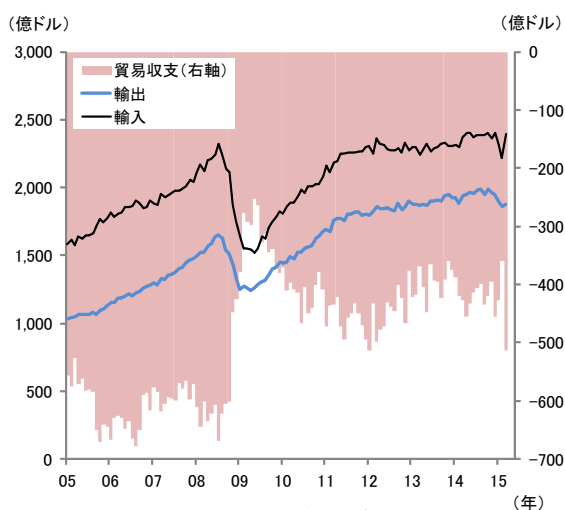
### コモディティ価格



## 輸出入・経常収支

- ◆ 3月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比0.9%増加し、輸入も前月比7.7%増加した。西海岸の主要港湾における労働争議の終結により滞っていた輸入が急増し、消費財の輸入は過去最高を記録した。貿易収支の赤字は前月比43.1%増と著しく拡大し、2008年10月以来最大の約514億ドルに達した。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けの輸出が前年比8.7%減、日本向けが同5.1%減少したほか、欧州向けも同3.5%減であった。輸入は、中国からの輸入が前年比31.7%増と大幅に増加したが、主に携帯電話とコンピューターの輸入増加に因る。日本からの輸入は同7.3%増、一方、欧州からの輸入は同0.2%減と、5ヵ月ぶりに前年比で減少した。

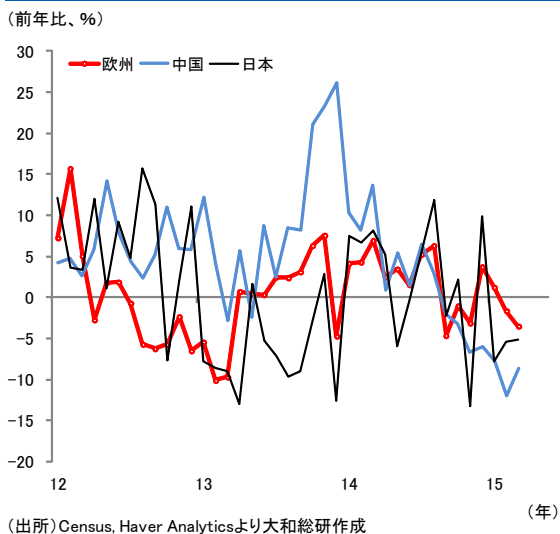
### 貿易収支動向



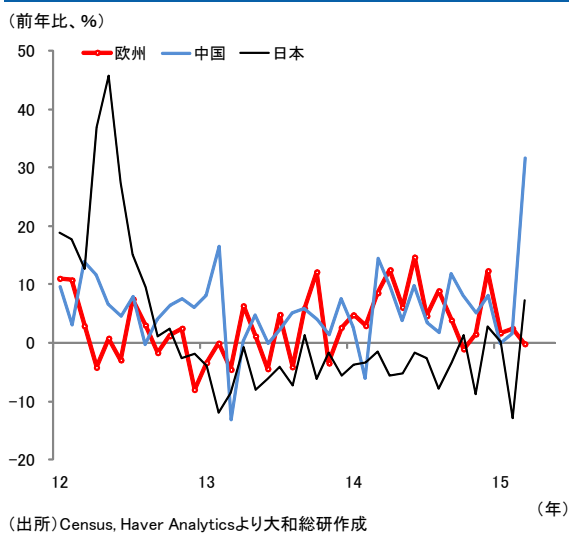
### 経常収支の推移



### 国・地域別輸出動向



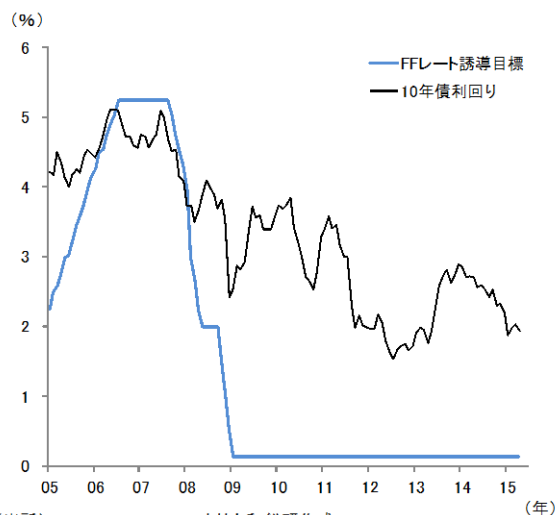
### 国・地域別輸入動向



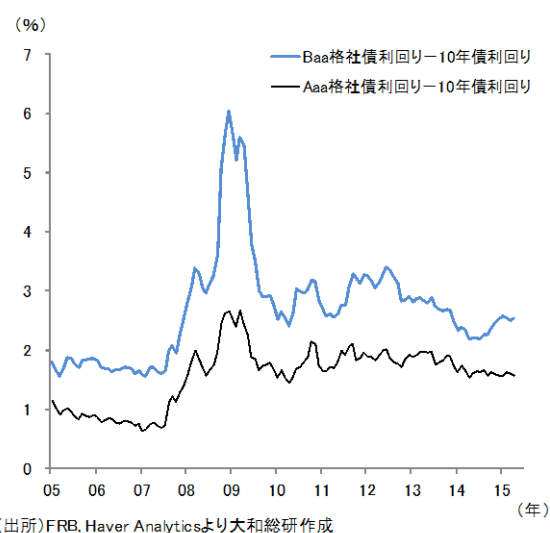
## 金融・財政

- ◆ 4月の長期金利（10年債利回り）の平均値は1.94%であった。FRB（連邦準備制度理事会）の利上げ時期がずれ込む見通しや、ドル高、他の主要国に比べて高めの金利水準であることなどから国債価格が上昇し、長期金利が低下傾向にある。
- ◆ 4月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、事実上のゼロ金利政策の据え置きと、保有する資産規模の維持が決定された。FRBの資産残高は、直近の5月6日の週平均が約4兆5,200億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅が縮小している。

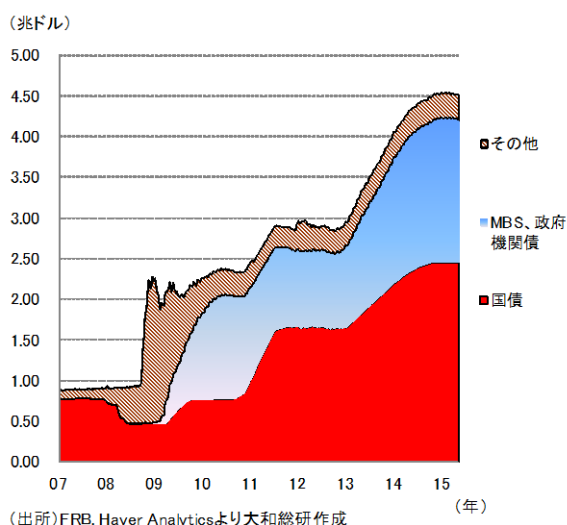
### 政策金利・長期金利



### クレジットスプレッド



### FRBの資産構成



### 連邦政府の財政収支

